



特集

お釈迦様ものがたり ①7

私たちの心の中にいまも



十六回にわたってお話してきたお釈迦様の物語も今回が最終回です。お釈迦様は涅槃に入る前に二つの言葉を遺されました。ひとつは、「すべて形あるものは滅びる。どんなに愛しているものにも別れは来る」という無常観です。もうひとつは、「たゆまず、怠らず、自分と法を灯にして、ひたすら修行に打ち込め」という修行の勧めでした。

七日後に茶毘に

お釈迦様が入滅されたとき、沙羅双樹の周りには大勢の人々がつめかけま

した。人間ばかりではありません。虎、獅子、象など数多くの動物たちも集まってきました。すべての人、すべての生き物が、涙を流し、別れを悲しみました。

お釈迦様の遺骸は、新しい布で包まれ、さらに綿で包み、それをまた布で包み、五百重に包まれました。それを鉄の棺に納めて、香木の薪の上に載せました。棺の周りに幕がはられ、薫香がたかれ、花で飾られ、音楽が奏でられました。

七日ののち、第一の長老マハーカー

No. 24
2008 Summer

山 松 含
寺 南 臨

シヤバが五百人の弟子を連れて到着しました。お釈迦様は茶毘に付されました。

仏舎利の争奪戦

茶毘に付されると、遺骨や遺灰が残りました。遺骨を「舍利」といいます。「仏舎利」はお釈迦様の遺骨のことです。この仏舎利を巡って争いが起こりました。

お釈迦様が亡くなられたという知らせを聞いた七か国の王が、「お釈迦様はわが国に縁のある人であった」と仏舎利を要求してきたのです。クシナガラの人たちは「お釈迦様は私たちの土地で亡くなられた。誰にも遺骨を渡すわけにはいかない」と拒否しました。

そこでドローナというバラモン僧が、「お釈迦様は耐え忍ぶことを説かれた。その人の遺骨を争うのはよくない。ともに仲良く八つに分配しよう」と提案

して、事なきを得ます。

やがて、仏舎利は日本にも

お釈迦様の遺骨は八等分され、それぞれの国に持ち帰られ、仏舎利を納めたストゥーパ（仏塔）が建立されました。ちなみに、ストゥーパは卒塔婆の語源でもあります。

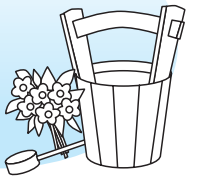
その後二百年たって、アショーカ王が仏教を広めるため、各地の仏塔から仏舎利を掘り起こし、インド全土に八万四千の仏舎利塔を建てたといわれています。

日本にも仏舎利がもたらされました。『日本書紀』にも記録がありますし、その後も道昭、鑑真、空海がもたらしたといわれています。日本で間違いない仏舎利と認められているのが、一九〇〇年タイ国王から日本の仏教界に贈られたもので、名古屋の日泰寺に現存しています。



ご存知ですか？

盂蘭盆会施食会の由来



お盆には盂蘭盆会施食会を厳修いたします。

施食会というのは、お釈迦様の弟子の一人で、多聞第一といわれた阿難(アーナンダ)に由来します。阿難がまどろんでいると、餓鬼が現れて「お前も三日後に死んで、餓鬼道に堕ちるぞ」と告げました。驚いた阿難がお釈迦様に相談すると、施食の法を修するよう教えられました。さっそく阿難が施食の法を修しますと、その功德により餓鬼は天に上ることができ、阿難も寿命を長引かせることができました。

もともと盂蘭盆会と施食会は別々に行われていたようです。盂蘭盆会が日本で初めて営まれたのは、七世紀の初めといわれます。平安時代にはかなり広く行われるよう

になり、鎌倉時代になると万灯会が盂蘭盆会の行事として定着していきます。

施食会が一般的になるのは、室町時代に入ってから。江戸時代になると、盂蘭盆会と施食会が一緒になっていきます。初めは修行の法であった施食会が、人々の要求にこたえて追善供養の方法になり、盂蘭盆会と結びついていったようです。

臨南寺では、八月二日(金)から棚経を勤めさせていただきます。八月十六日(土)には、盂蘭盆会施食会を厳修いたします。各家の回向をさせていただきますので、ぜひお参りください。ご都合が悪くお参りできない方は、不参にてご回向をお受けいたしますので、お問い合わせてください。

寺景 臨南 百景



僧形文殊菩薩

坐禅堂に安置されている僧形の文殊菩薩のことを、禅宗では「聖僧様」と呼びます。

文殊菩薩は、知恵をつかさどる仏様。普賢菩薩とともに釈迦如来の脇侍として従う姿を釈迦三尊像として見かけます。実在した人物で、仏典結集にも関わったとされます。釈迦の弟子たちが、大乘仏教の奥義に通じた惟摩居士に論戦を挑み、次々とやり込められたなかでただ一人、文殊菩薩だけは対等に議論できたというエピソードも残っています。

髪を結び、右手に剣、左手に經卷を持ち、獅子の背に結跏趺坐するお姿が一般的です。禅宗では獅



子の背に結跏趺坐するお姿は同じですが、剃髪し坐禅を組む僧形となります。僧侶の日常生活の根本とされたことから、僧形文殊ともいわれ、僧堂に安置されています。

文殊菩薩の功德は修行者の苦難を除くとされます。また、坐禅の際に参禅者の背中を打つ警策は「文殊菩薩の手の代わり」ともいわれます。当山でも、坐禅を行うときには、須弥壇の前に聖僧様を安置し、参禅者を見守っていただいています。早朝坐禅に参加して、聖僧様のお姿をご覧になりませんか？

衣食に

労することなかれ

ガソリン、ガス、パン、油、マヨネーズ……ものすごい勢いで物の値段が上がっています。根底にあるのは石油の値上げと小麦やトウモロコシなど食糧の暴騰です。漁船も出漁を見合わせるほどで、しばらく物価の高騰は収まりそうにありません。にもかかわらず、「しょうがないですね」で済ます首相。「こんなことならガソリン税を上げなきゃよかったのに」と突っ込みたくなりますね。

ところでいま当山では、『正法眼藏しやうほうげんざう随聞記ずいもんき』の読書会を開いています。道元禅師の言葉を弟子の懷辨えいべん禅師が書き留めたものですが、そのなかに「衣食に労することなかれ」という言葉があります。中国の修行時代に見た紙の服で修行に打ち込む修行僧のエピソードが添えられ、食べ物や着る物で思いわずらうなど教えられています。

その言葉に習えば、この物価高は



臨南寺 住職

大澤正道

贅沢な生活を見直す恰好のチャンスといえるかもしれません。車に乗らず、パンや肉を控え、衣服にもこだわらない暮らし。かつて、私たちの父や母、祖父や祖母が送っていた生活に戻せばいいのです。

まもなくお盆がやってきます。先祖の霊を慰め、感謝の気持ちを込めて、供物を供え手を合わせます。それとともに、暮らしを少し見直してみるのは、何よりの供養といえるかもしれません。

合掌

弁財天万灯会にお参りください

八月十二日(火)、臨南寺の境内は幻想的な雰囲気になります。本堂前で、弁財天様への献灯を多数ご用意しています。皆様の願い事を書き入れ、お供えいたしましょう。万灯会は、お盆の迎え火でもあります。ご先祖や亡き人へのご供養とともに、皆様の願いをご祈念させていただきます。

秋のお彼岸にはお写経を

九月二十日(土)・二十一日(日)・二十三日(火)の三日間、彼岸会写経会を行います。二文字一文字心を込めてのお写経は、さまざまな功德をもたらします。先祖を供養し、故人の冥福を祈り、浄福を授かりましょう。お写経は、大本山總持寺に納経させていただきます。お気軽にお申し込みください。

臨南寺行事予定 (七〜九月)

檀家様

○墓経

八月十日(日)午前十時〜十二時 受付は午前十一時半まで
八月十二日(火)午後七時〜九時 受付は午後八時半まで
*両日、ご都合のよい日にお越しください。臨南寺に墓地をお持ちの方に限ります。

○弁財天万灯会 (本堂)

八月十二日(火)午後六時〜九時 受付は八時まで
先祖の霊を供養するとともに、あらゆる願いを叶えてくださる弁財天様に、願いを託して献灯をなさいませんか。

○孟蘭盆会施食会 (本堂)

八月十六日(土)午前九時〜午後時 受付は十二時半まで
各家のご先祖とご縁の深い精霊のご供養のため、法要をとりおこないご回向させていただきます。

○彼岸会写経会

九月二十日(土)・二十一日(日)・二十三日(火)
午前十時〜午後四時
墓苑事務所にて受け付けております。お気軽にお申し付けください。費用千円

○彼岸会施食会 (本堂)

九月二十六日(金)午後時〜三時 受付は二時半まで
お彼岸は大自然にそとご先祖様に感謝する大事な期間です。家族そろってお墓参りをし、ご先祖様をしのび、自分が今あることを感謝いたしましょう。

墓檀家様

○墓経

八月十日(日)午前十時〜十二時 受付は午前十一時半まで
八月十二日(火)午後七時〜九時 受付は午後八時半まで
*両日、ご都合のよい日にお越しください。臨南寺に墓地をお持ちの方に限ります。

カブスカウトの子どもたちが 坐禅を体験しました

さる六月二十二日(日)、カブスカウトの子どもたち十五人が、本堂で坐禅を体験しました。その感想を隊長の扇谷さんに寄せてもらいました。



「私たちは大阪第二四九団のカブスカウト隊です。今日は、午前中長居公園植物園にてオリエンテーリングをし、午後から臨南寺で坐禅体験をしました。スカウトたちは、最初は落ち着きなく、興味ありげに口々に話をしていましたがお坊さんのお話のあと、坐禅が始まるとみんな真剣な面持ちで取り組んでいたようでした。

ほとんどのスカウトが初めての体験で、短い時間ではありましたが、精神統一ができたようでした。これを機に、いつそ心ゆとりをもって、何事にも取り組んでほしいと思います。今日は貴重な体験ありがとうございました」

坐禅は気持ちのよいものです。早朝坐禅会に参加される方も増えてきました。団体での坐禅も受け付けております。寺務所にご相談ください。

マトリ合同法要 落語を楽しみました

五月十一日(日) 午後二時からがっしょう園マトリの合同法要が営まれました。今回も円楽一門の落語家・三遊亭貴楽師匠の落語を聞いたあと、マトリでそれぞれのご霊牌に手を合わせていただきました。

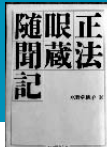
今回の落語は、「井戸の茶碗」。正直清兵衛が仏像をめぐる奮闘する人情味あふれる一席。一時間におよぶ熱演に、本堂は笑いの渦に包まれました。

お墓の継承者がいなくても、永代にわたって供養してもらえるマトリ。年々入会する方が増えています。



『正法眼蔵随聞記』の読書会

お坊さんと一緒に
みんなで読んでいます



道元禪師に仕えた懐弊禪師が、折に触れて聞いた道元禪師の教えを書き留めた『随聞記』。それを現代語に訳した読みやすい文庫本を、毎月一回一緒に読んでいます。現在四名の方が参加されて、お坊さんの体験を聞いたり、いろんな話をしながら二、三話ずつ読み進めています。いつからでも入れますので、お気軽にご参加ください。

*なお、『正法眼蔵随聞記』(ちくま学芸文庫・1260円)は、当山にてお分けたいたします。ご希望の方はお申し込みください。



墓苑をご利用の皆様へ お願い

● 手桶を花立て代わりに使わないでください。ご使

用後は必ず元の場所へお戻しくください。

● お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。境内では最徐行をお願いいたします。駐車中の事故等は一切責任を負いかねます。

● ペットを墓苑内に連れて行かないでください。

● トイレにオムツを流さないでください。

● お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。

編集後記

ある本に「桃や柳、ザクロはお釈迦様の成道に縁があることにより、餓鬼が寄りつかないとされている」とありました。お釈迦様が悟りを開かれたときに坐っていたのは菩提樹の下でした。桃や柳、ザクロも関係があるのでしょうか？ 記事のご感想をお寄せください。(M)

お気軽にご参加ください

早朝坐禅会

毎月第一土曜日

午前六時半〜 本堂にて

*二月・八月は、お休みさせていただきます。

写経会

毎月二十日 午前十時〜午後四時
写経料・千円

『正法眼蔵随聞記』読書会

毎月第二土曜日午後三時〜

*一月・八月は、お休みさせていただきます。

*いずれも事前のお申し込みが必要です。

「ほ〜っと」24号

平成20年7月

編集・発行：稜伽林「ほ〜っと」
編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-711-493

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com